（様式⑦　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立　　浜寺中　　学校
校長　　川端　一生

中学校区におけるめざす子ども像
◎自らを律し、自ら学び続ける子　◎自ら課題を見出し、解決する子　◎互いを思いやり、認め合う子　◎規則正しい生活と運動で、健康的な生活をおくる子

令和６年度　重点目標
子ども一人ひとりの学びを保障する～誰ひとり取り残さない授業づくりクラスづくり学校づくり～
○ICTを活用した授業による共同的・探求的・個別最適な学びの確立～浜中クローバーの実施～
○人権意識を高め、教職員が一体となって生徒の自己実現を支える生徒指導体制の確立
○生徒・教職員のウェルビーイング実現に向けた対話を大切にした学校づくり

確かな学びの現状（令和５年度　学校教育アンケートより）
・「授業がわかりやすい」と答えた生徒は、84.6（R4）→87.6（R5）と上がっており、「少人数授業…」においても84.9→86.5とこちらも増加していることから、学校全体で取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「学びの共同体」をベースにした授業改善（浜中クローバー）が子どもに定着し、一定の成果を上げていると考える。ただ、次の「タブレットを使った…」では、97.1→96.4とやや減少しているため、ICTを用いた授業をどのように組み込んでいくかを考えていく必要がある。
・本校の課題である「家庭学習における、主体的に学ぶ力の育成」については、「自分の学力向上の…」において67.3→58.3と年々数値が減少してきている。授業は積極的に取り組む姿勢が多くみられるものの、学習した内容をどのように家庭につなぐかが今後の課題である。
・人権を大切にしたクラスづくりにおいては、生徒アンケートの「…相談できる先生…」という項目で74.7→77.5と微増しており、保護者アンケートの「先生はいじめや問題行動に…」で84.5→90.9と大幅に増加している。
・各行事の場面では、「体育大会や文化活動発表会…」では96.5→97.4と昨年よりもさらに高い数値を示している。また保護者アンケートの「子どもは学校行事…」でも94.1→93.9と高い数値を維持している。

豊かな心・健やかな体の現状（令和５年度　学校教育アンケートより）
・人権を大切にしたクラスづくりにおいては、生徒アンケートの「…相談できる先生…」という項目で74.7→77.5と微増しており、保護者アンケートの「先生はいじめや問題行動に…」で84.5→90.9と大幅に増加している。
・各行事の場面では、「体育大会や文化活動発表会…」では96.5→97.4と昨年よりもさらに高い数値を示している。また保護者アンケートの「子どもは学校行事…」でも94.1→93.9と高い数値を維持している。
・生徒に「自分たちの学校は自分たちで創る」という意識向上のために、生徒会活動中心に取り組みを行ってきた。生徒アンケートの「生徒会活動や委員会活動、部活動…」では、89.1→91.9と増加しており、主体的に学校づくりに参画しようという前向きな回答が得られた。
・昨年度に続き、２年生生徒会・代議員による小学校への出前授業を行っているが、小中の関わりを今後どのように増やしていくかを考える必要がある。また、あいさつについては9割以上の生徒がよく挨拶をしていると答えている。また地域の清掃活動には部活生中心に年４回活動できた。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～１２月）		達成状況（年度末） 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業づくり	○「浜中クローバー」の取り組みを通して、落ち着いた雰囲気の中で、仲間と共に主体的に授業に取り組む生徒の育成。 ○教師用タブレット・生徒用ＰＣを活用した、個別最適化をめざした授業づくり。 ○英語力に課題のある生徒にきめ細かな指導・支援を行った学力向上。 ○１年数学科、2年国語科において少人数習熟度別の授業を実施した学力向上。 ○教師全員が一人一回以上は授業を公開し、学期に１回の子どもの学びの事実のリフレクションを中心に協議をする研究授業の実施。	●落ち着いた雰囲気の中で、仲間とともに主体的に授業に向かう生徒の育成する。 ・学期に１回は「生徒の姿から学ぶ」教職員研修を実施し、主体的・対話的な深い学びを推進する。	「授業はわかりやすい」とと肯定する生徒の割合（90%）	学校教育アンケート	３学期	○	肯定的回答率が８３％であった。	○	生徒アンケート「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が最終結果８３％であり，「浜中クローバー」の授業の取り組みの成果があったといえる。また，ICTの活用については生徒アンケート「タブレットを使った授業を行っている」の肯定的回答率が９９％であり，どの授業においてもICTを活用した個別最適な学びの取り組みが成果としてあらわれたといえる。 一方，生徒アンケート「少人数授業やＴＴ授業はわかりやすい」の肯定的回答率が最終結果６１％と低く，課題であった。少人数授業やＴＴ（チームティーチング）授業の利点が生徒らに十分に理解されず，学びに向かう授業への意識が高まらなかったといえる。	○	〈授業等について〉 「授業がわかりやすい」と回答する肯定的回答率が高く，「浜中クローバー」の取り組みの成果が出ていると評価できる。多くの生徒たちが「授業ではわからないことがあっても訊ける」という関係作りができており，子ども一人一人の学びを保障する授業づくりができているといえる。 しかし，一方で「少人数授業やＴＴ授業はわかりやすい」と肯定する生徒の割合が低かった。少人数授業や習熟度別学習の良さを実感できる授業づくりが十分でなかったのではないか。 来年度は生徒らが「主体的・対話的な学び」と「個別最適な学び」の両方の観点から「授業が楽しい」と感じるのと同時に，「少人数授業や習熟度別学習が学習に有用的である」と感じる授業づくり・授業改善に取り組んでいってほしい。
			●少人数授業や習熟度別学習の充実を図り、学びをあきらめない生徒の育成をめざす。	「少人数授業やＴＴ授業はわかりやすい」と肯定する生徒の割合（90%）	学校教育アンケート	３学期	△	肯定的回答率が５７％であった。	△		△	
			・全教科においてＩＣＴを活用した授業づくりに取り組む。	「タブレットを使った授業を行っている」（前年値96.4以上）	学校教育アンケート	３学期	◎	肯定的回答率が９９％であった。	◎		◎	
	家庭学習の定着	○家庭での学習習慣の定着。	・「授業の振り返り」「放課後学習」「浜中まなサポ」充実を図り、自ら学習する習慣の定着を図る。 ●生徒用パソコンを活用した家庭学習に取り組む。	「家庭での学習時間が増えた」と肯定する生徒の割合（70%）	学校教育アンケート	３学期	○	肯定的回答率が７０％であった。	△	生徒アンケートでは「自分の学力向上のため、家庭での学習時間を増やしたりしている」が最終結果として６０％であり，低かった。放課後学習会「浜中まなサポ」や，各授業の中で，より一層の家庭学習への学習習慣の定着の取り組みが必要である。	○	〈家庭学習について〉 昨年度に引き続き，「家庭での学習習慣の定着」に課題がありといえる。保護者アンケートでは「子どもは宿題や予習、復習など自分の学力向上のため家庭での学習も頑張っている」が最終結果として４８％であり，生徒および保護者の意識の差にも違いがあった。学校，生徒，保護者が共同して家庭での学習習慣の定着に向けて取り組む必要があるのではないか。
			★小中一貫教育のさらなる推進のため、小学校と連携した「授業改善」を行う。						○		○	
豊かな心・健やかな体	クラスづくり	○人権教育を学校の文化として定着させ、生徒の自尊感情が高め、いじめや差別を防止する人権学習の実施。 ・支援が必要な生徒・支援学級と通常学級がつながる授業・不登校生への対応の充実。	●人権学習の取り組みを通して、自分のよさを知り、他人を思いやり寄り添える生徒を育成する。 ●人権5部会の取り組みを計画的に実施するシステムを構築する。	「自分たちの話をよく聞いてくれ、相談できる先生がいる」と肯定する生徒の割合（80%）	学校教育アンケート	３学期	◎	肯定的回答率が８２％であった。	◎	生徒アンケート「自分たちの話をよく聞いてくれ、相談できる先生がいる」の肯定的回答率が，最終結果８０％であった。「浜中クローバー」の取り組みとして，生徒に寄り添った授業づくり・学校づくりの成果であったといえる。また，生徒アンケート「学校行事は楽しく参加している。」の肯定的回答率も最終結果９７％であり，成果があった。	◎	〈クラスづくりについて〉 生徒アンケート「自分たちの話をよく聞いてくれ、相談できる先生がいる」の肯定的回答率が高く，良い。先生と生徒の信頼関係が構築できているといえ，成果といえる。オープンスクールで授業参観した時も，先生と生徒がお互い尊重して，授業や学校生活を送っていると感じることができた。今後も，子どもがしっかりと自分の居場所を持ち，自己肯定感を感じるようなクラスづくりに努めてほしい。
			・各行事の場面で、クラスの仲間と協働し応援できる生徒に育成する。	「体育大会や文化活動発表会などの学校行事は楽しく参加している。」と肯定する生徒の割合（前年値97.4以上）	学校教育アンケート	３学期	◎	肯定的回答率が９８％であった。	◎		◎	
	学校づくり	○生徒会・委員会活動を通して、主体的に学校づくりに参画する取り組みの実施。 ○いじめの防止等の取り組みに生徒の意見を取り入れる。 ○部活動等を通して、自己管理を行い最後までやり抜く力、マナー、礼儀の育成。 ○あいさつを通して他者とのつながりを大切にする共感力をもった生徒の育成。	・生徒の自主活動を高め、学校生活を充実させる。 ●体育大会、文化活動発表会をはじめとした学校行事を生徒主導の運営で行う。	「生徒会活動や委員会活動、部活動をがんばっている」と肯定する生徒の割合（前年値91.9以上）	学校教育アンケート	３学期	○	肯定的回答率が８７％であった。	○	生徒アンケート「生徒会活動や委員会活動、部活動をがんばっている」の肯定的回答が最終結果８７％であった。体育大会や文化活動発表会，また，集会では生徒が司会をするなど，さまざまな場面で生徒主体で運営し「自分たちで創る学校」という意識が高まったといえる。また，生徒アンケート「学校は楽しい」の肯定的回答率が最終結果９４％，「よくあいさつしている」の肯定的回答率が最終結果９２％で，成果があった。	◎	〈学校生活等について〉 ・生徒アンケート「学校が楽しい」と答えている生徒が多くて安心した。 ・「朝のあいさつ運動」では正門に立って参加しているが，浜寺中学校の生徒は「おはようございまｓＩ」と挨拶できる生徒が多く，とても素晴らしいと感じている。学校での「あいさつ運動」などで，つながりを大切にした教育活動の成果といえる。 ・「部活動を頑張っている」「体育大会」などの学校行事への取り組みも肯定的な生徒の割合も高く，良い。
			●地域と連携し、すべての生徒の居場所づくりに向けた取り組みの充実をめざす。（浜中まなサポ・浜中ファームなど）	「学校は楽しい。」と肯定する生徒の割合（前年値92.2以上）	学校教育アンケート	３学期	◎	肯定的回答率が９７％であった。	◎		◎	
			★小中合同「あいさつ運動」を行う。	「よくあいさつしている。」と肯定する生徒の割合（前年値93.2以上）	学校教育アンケート	３学期	◎	肯定的回答率が９４％であった。	◎		◎	
開かれた学校	ＨＰの充実	○学校の情報を適切に公開した信頼される学校づくり。	●テトルを活用し確実に保護者の情報提供を行っていく。 ・通信やＨＰ等による教育活動の情報発信を行う。	「学校の様子や学習内容を懇談や各種の通信，ホームページなどで知ることができる。」と肯定する保護者の割合（前年値96.5以上）	学校教育アンケート	３学期	○	肯定的回答率が９４％であった。	○	保護者アンケート「学校の様子や学習内容を懇談や各種の通信、ホームページなどで知ることができる」の肯定的回答率が９４％であった。学校ＨＰを活用して学校教育活動を公開し，学校を知ってもらうことができた。	◎	〈開かれた学校づくり〉 学校ＨＰを日々更新できているため，学校の状況や取り組みを十分に知ることができた。家庭や地域に学校の教育活動を知ってもらうことで学校と連携して子どもたちの健全育成に取り組むことができる。引き続き続けてほしい。

校長より（年度末）
今年度，学校教育目標「子ども一人ひとりの学びを保障する～誰ひとり取り残さない授業づくりクラスづくり学校づくり～」に全教職員で一丸となって取り組みました。「授業づくり」では，学期ごとに１回（年間３回）の全市に向けて公開授業を設定し，全教員が公開授業を行いました。子どもたちに寄り添いながら「学力向上」をキーワードに「授業改善」「確かな学び」に向けて研修を行いました。また，人権教育も積極的に行い，子どもたちの「豊かな心」「健やかな体」の育成に努めました。その結果として，多くの項目で高い肯定的回答率となり成果があったと考えています。しかしながら，生徒一人ひとりを見た場合，さまざまな理由で「不登校」となっていたり，「学習意欲」が高くない状況もあります。「子ども一人ひとり」をしっかり見取り，課題克服のために計画を立て，確実に実行していきます。そして学校と家庭，地域が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいけるよう次年度につなげていきたいと思います。

学校関係者評価者から（年度末）
今年度は，学校からの報告の通り多くの項目で高い肯定回答率となり，成果があったといえる。次年度も引き続き学校教育目標にある「子ども一人ひとりの学びを保障する～誰ひとり取り残さない授業づくりクラスづくり学校づくり～」を大切に教育活動を進めてほしい。
〈次年度への期待〉
現代では「ＡＩ」の活用が教育課題として挙げられるのではないだろうか。正しく「ＡＩ」を活用することができるように，また，スマートフォンや一人一台端末（生徒用パソコン）などのＩＣＴ機器の活用は，これからの社会では必然的に必要になってくる。従前の教育にとらわれることなく，新しい時代にあった手段・方法を活用して，子どもたちが将来，未知なる課題に直面した時でも自分で解決に向けて進んでいけるような教育課程を実施してほしい。そのために，学校，家庭，地域がしっかりと共同して子どもたちの健全育成に取り組んでいきたいと思う。